

神経研究の進歩 総目次

1956年～1968年（1巻1号～12巻1号）

- 1巻1号 '56年1月
神経系疾患の診断法（Ⅰ）
- 1巻2号 '56年4月
神経系疾患の診断法（Ⅱ）
- 1巻3号 '56年8月
代謝障害と神経疾患（Ⅰ）
- 1巻4号 '56年12月
代謝障害と神経疾患（Ⅱ）
- 2巻1号 '57年4月
脳の生理に関するシンポジウム
- 2巻2号 '57年10月
脳腫瘍
- 2巻3号 '58年3月
第1回国際神経科学学会展望（Ⅰ）
- 2巻4号 '58年5月
第1回国際神経科学学会展望（Ⅱ）
- 3巻1号 '58年10月
第1回国際神経科学学会展望（Ⅲ）
- 3巻2号 '59年1月
肝脳疾患（Ⅰ）
- 3巻3号 '59年4月
肝脳疾患（Ⅱ）・小脳
- 3巻4号 '59年9月
錐体外路系（Ⅰ）
- 4巻1号 '59年11月
錐体外路系（Ⅱ）
- 4巻2号 '60年1月
展望・脊髓血管障害例
- 4巻3号 '60年8月
神経化学懇話会
- 4巻4号 '60年8月
興味ある症例の臨床と病理
- 5巻1号 '60年10月
第1回神経病理懇話会
- 5巻2号 '61年5月
脳血管性障害（Ⅰ）
- 5巻3号 '61年9月
脳血管性障害（Ⅱ）
- 5巻4号 '61年12月
脳血管性障害（Ⅲ）・精神薬理
- 6巻1号 '62年3月
脳炎・膠質細胞（第2回神経病理懇話会）

- 6巻2号 '62年7月
小児神経病学
- 6巻3号 '62年9月
第4回神経化学懇話会特集号
- 6巻4号 '62年11月
神経解剖
- 7巻1号 '63年1月 ￥1,400
脳腫瘍（第3回神経病理懇話会）
- 7巻2号 '63年3月 ￥1,200
神経疫学・診断検査法
- 7巻3号 '63年6月 ￥1,400
脳研究のあゆみ
- 7巻4号 '63年8月 ￥1,200
第5回神経化学懇話会特集号
- 8巻1号 '64年1月 ￥1,200
末梢神経（第4回神経病理懇話会）
- 8巻2号 '64年4月 ￥1,200
奇形性神経疾患
- 8巻3号 '64年7月 ￥1,300
第6回神経化学懇話会特集号
- 8巻4号 '64年11月 ￥1,000
視床—構造・機能・臨床
- 9巻1号 '65年3月 ￥1,000
蛍光抗体法とVirus性脳脊髄炎
- 9巻2号 '65年7月 ￥1,000
代謝性神経疾患
ミオパチーの疫学と臨床
- 9巻3号 '65年9月 ￥1,000
第7回神経化学懇話会特集号
- 9巻4号 '65年12月 ￥1,000
神経シンポジウム
- 10巻1号 '66年3月 ￥1,000
脳のシンポジウム
- 10巻1号まで売切れになっています。
- 10巻2号 '66年7月 ￥1,000
第8回神経化学懇話会特集号
- 10巻3号 '66年10月 ￥1,000
脳のシンポジウム
- 10巻4号 '66年10月 ￥1,000
第7回神経病理学会特集号
- 11巻1号 '67年3月 ￥1,000
いたみ
- 11巻2号 '67年8月 ￥1,250
日本脳炎

11巻3号 '67年10月 ¥ 1,250

脳のシンポジウム

11巻4号 '67年12月 ¥ 1,250

第8回神経病理学会

12巻1号 '68年4月 ¥ 1,900

精神薄弱

12巻2号 '68年8月 ¥ 1,250

脳研究の進歩

'68年10月 第12巻 第3号 1,500円

【特集 てんかん】

- てんかんをどう考えるか……………秋元波留夫・他
 てんかん発射の神経機序……………沢 政 一
 てんかんの生化学……………斎 藤 章 二
 てんかんの直流電位……………真 柳 佳 昭
 てんかんの病因論……………有 馬 正 高
 臨床脳波とてんかんの分類……………和田豊治・他
 てんかんの臨床型……………万 丸 章 三
 自律性てんかん……………下 田 又 季 雄
 反射てんかんの展望……………福 山 幸 夫・他
 小児てんかんの臨床経過……………大 田 原 俊 輔
 小児てんかんの精神医学的側面……………平 井 富 雄
 てんかんの社会精神医学（小児）……………橋 本 禎 穂
 てんかんの社会精神医学（成人）……………笠 松 章・他
 てんかんの薬剤……………田 縁 修 治・他
 てんかん研究の国内文献……………（編）和田豊治・他

【古典のページ】

痙攣についての研究……………John Hughlings Jackson
 萬年 甫・他訳

【書 評】

David H. Clark 著（鈴木淳訳）：

精神科医の役割……………西 尾 友 三 郎

'68年12月 第12巻 第4号 1,500円

【特集 パーキンソニズム】

開会の辞……………懸 田 克 躬

黒質の解剖学……………小 川 鼎 三
 黒質色素顆粒の電子顕微鏡的研究……………広 沢 一 成
 黒質の線維結合……………益 田 栄
 老人性脳退行変性の組織化学……………平 井 俊 策
 Monoamine 代謝系の組織化学……………清 水 信 夫
 錐体外路の生化学……………佐 野 豊・他
 Catecholamine 代謝とうつ病……………高 橋 良
 神経病理の立場からみた Idiopathic

Parkinsonism の問題点……………白 木 博 次
 動物の神経原線維変化の実験的研究……………生 田 房 弘・他
 脳炎後 Parkinsonism の Alzheimer

原線維変化の分布……………石 井 毅
 脳炎後パーキンソニズム……………山 本 達 也
 固縮の神経生理学的解析……………藤 森 聞 一・他
 振戦機構の視床内局在……………梶 林 博 太 郎
 Parkinsonism に対する定位脳手術の

臨床成績……………杉 田 虔 一 郎
 運動制御と抑制性ニューロン……………伊 藤 正 男
 大脳基底核の機能……………梶 鎮 夫
 臨床像における二、三の問題点……………後 藤 昭
 黒核病変と臨床症状……………立 津 政 順
 結 語……………梶 林 博 太 郎

【原 著】

先天性精神薄弱にみられる形態異常

に関する研究……………有 馬 正 高・他
 小児期における視床下部疾患の臨床……………鈴木義之・他
 頭部外傷後遺症の病態生理に関する

脳波学的研究……………廣 岡 男 也
 高血圧性脳出血急性期における肺水腫発生機序およ
 びその病態に関する実験的研究……………小 野 勢 津 男
 Behçet 氏症候群における慢性播種性脳脊髄炎
 について……………十 束 支 朗・他

【書 評】

上村卓也・他著：神経耳科学検査法……………佐 野 圭 司
 T. Freeman et al. 著（小林八郎訳）：

慢性分裂病……………西 丸 四 方